

に ち れ ん わ か こ ん じ ょ う
 日 蓮 は 少 き よ り 今 生 の
 祈 い の り な し 。 た だ 仏 に な
 思 ら ん と お も う ば か り な り 。
 と の お ん こ と
 さ れ ど も 、 殿 の 御 事 を ば 、
 隙 ほ け き ょ う し ゃ か ぶ つ
 ひ ま な く 法 華 經 ・ 釈 迦 仏 ・
 に っ て ん も う ゆ え
 日 天 に 申 す な り 。 そ の 故
 ほ け き ょ う い の ち つ ひ と
 は 、 法 華 經 の 命 を 継 ぐ 人
 お も
 な れ ば と 思 う な り 。

(御書新版1590ページ・御書全集1169ページ)

通 解

日蓮は若い時から今生の栄えを祈ったことはない。ただ仏になろうと思い願うだけである。

しかし、あなた（四条金吾）のことは、絶えず法華經・釈迦仏・日天子に祈っているのである。それは、あなたが法華經の命を継ぐ人だと思ふからである。

 こ う け い む ね ち ょ う せ ん
 後 継 の 使 命 を 胸 に 挑 戦 の 日 々 を

よくわかる解説

皆さん、こんにちは！ サンです！ 夏の暑さに負けないくらい、熱心に御書を学んでいこう☆

今回学ぶ「四 条 金 吾 殿 御 返 事（世 雄 御 書）」は、1277年（建治3年）、日蓮大聖人が56歳の時に身延で著され、鎌倉に住む門下・四 条 金 吾 に送られたお手紙です。

金吾は、主君の江間氏へ妙法を説いたことで反感を買いました。さらに、金吾にまつわるデマを信じた主君から“法華經の信仰を捨てなければ、所領を没収する”と命じられます。今回の御書は、このことについての金吾の報告に対する大聖人のお返事です。

題号の「世雄」とは、世の中で最も優れた勇者である仏のこと。最高の教えである仏法を持つ人が社会で勝ちゆく英雄であり、大聖人が、苦境に立たされている金吾に対して、どんな時も仏法を持ち続けることで、困難を乗り越えられると励まされています。

大聖人は、若い時から仏道を志し、生涯を通して

法華經に身命を捧げてきました。世間的な栄誉には目もくれず、一切衆生を救おうと広宣流布の誓願を貫かれたのです。御文の中でも、門下である金吾のことをずっと祈ってきたと述べられています。それは、法華經の行者である大聖人の後継の弟子として生きていく使命があるからです。

大聖人と同じように、後継の弟子にたくさんの励ましを送ってこられたのが、池田先生です。私たち未来部の成長と幸せを祈りつつ、新聞や書籍、写真など、さまざまな形で激励してくださっているね。そこには、たくさんの人を笑顔にして、平和を広げる広布のバトンを受け継いでほしいという強い思いがあります。

池田先生はつづっています。

「将来は、人びとの幸福のために、人類の平和のために、諸君が学会の土台となって、広宣流布を支えていただきたい」

師匠の思いを継ぐのは私たち！ 後継の使命を胸に、挑戦の日々を送っていこう☆